十五日夕刊
磐城毎日新聞
□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵稅 金十五錢
□一部賣 金三錢
□廣告料一行 金六十錢
□[illegible]一個 金九十錢
□場所指定一行 金一圓増
□電話（平）七八六番
□振替口座東京一〇八・五八五
發行所 福島縣平市田町十六番地 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 森合英

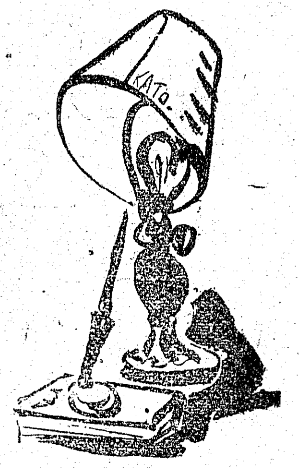
大君の命にしあれ
ば父母を齋瓶と置
きて集ひ來にしを
（防人の歌）

閼伽井嵐

井戸と提燈

堤 康秀

電氣時計といふものはどれもこれも揃つて正確で大變結構なものだが、その反面狂ふとなると、これまた仲好く一緒に狂ふので困ること夥しい。水道や電燈などもこれに似てゐる。先日の嵐で水道に故障が生じた。さあ困つた。あそこの井戸の水は良かつた筈だといふので行つて見ると今はもう蛙の棲家となつてゐるあの家には井戸があつた筈だと聞いて見ると水道の出來た年に埋めてしまつて今は徒らにダリヤが咲いてゐるといふ始末あの颱風の夜電燈が消えた、ランプ、提燈、蠟燭、といふことになつたが、さておいそれと間に合はない、あるものは眞暗な電燈ばかり！以上はまことに無理からぬ話でもあるが、しかしこれに關聯して色々考へさせられる事のない譯でもない。古いものを捨て〻新しきにつくといふ事はい〻。しかし無差別な捨て方、急な捨て方は決して正しい捨て方ではあるまい。正しいすて方の出來ないものには正しいひろひ方の出來る筈はない。これは言葉の世界にもあてはまる事で古いいやな言葉をいまだに用ひてゐるやうな人に限つて、きざな新造語や外來語をいち早く拾ひ上げる人だ。又吾々は自ら捨て〻置きながら今更さがし廻るやうな愚をなしてはならないこれは決して井戸や提燈のみの問題ではないのだ。「對應」といふことはまさしく絶妙なものだ「捨て方」と「拾ひ方」「否定」「肯定」等々。吾々はその一つを間違へた場合他の一つの正しきを期待することは出來ない。このたび平市長として猪瀬氏が拾ひ上げられた。私はこの拾ひ方の正しさを近頃にない喜ばしさを以て確認するものである



踏破六百里

……楢田彦之進氏による……

岩崎敏夫

（十一）

下關公會堂では、盛大なる歡迎會が開かれ席上、下關要塞吉見中佐の發聲で、自分の萬歳を發聲せられた時ははづかしいやらうれしいやら得意の樣でもあり言ふに言はれぬ感じであつた。吉岩號は汽車で平に送り、私はその間九州四國を一巡して、大体馬と一緒に平に歸れるやうにした。

東京に二泊し、宮城を拜し多摩御陵に參拜した。多くの人々に會つた中で、帝國在鄕軍人會長、一戸閣下に御報告した際、明治神宮公式參拜をさし許され、陸軍大臣白川閣下、最後に總理大臣田中閣下に御報告して、白川大將よりは「祝壯圖成功」田中大將よりは「振起志氣」の文字をいた〻いたりして、十二月九日馬の待つてゐる平に歸着、翌十日入遠野村なる我家についた。後日伊藤知事に招かれ、又師團長によばれて歡迎會にのぞみ感激した

家に落ちついてつく〴〵ふりかへつて見ると感慨は多い。記錄に表はれた里程五百五十七里、所要日數五十七日、騎乘時間二百四十一時間、睡眠時間二百七十三時間となるが、實際はこの里程以上に歩き、この睡眠時間より少くねむつてゐる筈である。終つて見れば大した事をやつたとも別に思へないし、た〻やる事をやつたに過ぎないといふ感じだけではじめは多少辛かつたが概して別段難儀とも思はなかつた。た〻馬丁の功勞は推奬して餘りあるものと思ふ。

自分はこの計畫を幸にしなしとげ得たのも、或は向ふ見ずの素人であつたためかも知れぬ後に習志野の騎兵學校で講話をする機を得たがその際、教官の遊佐中佐からも、素人の君だからこそ出來たんだ岡山で馬が倒れた場合普通、馬をとりあつかつてゐる人なら危くてとても引き出せるものでないと言はれ恐縮した。吉岩號は馬二頭までも踏み殺し人を噛んだ例もある非常な悍馬であつたが、中國以西では殆んど猫の様になつて、毎朝私の行くのを前足かき立て〻よろこんでゐた。毎日旅の寢床が變るものだから氣の小さな馬は、自分にさへついてゐれば安全だと思つてゐるのだらう。疲れてばかりではないらしい、馬は敏感で、十字路丁字路のある毎に立止つてにほひをかぐが、これは歸る時のことを考へてゐるためだと思はれる。馬蹄は百里位しか持たぬ様である。

野薊集

渡鳴何邊選

田植笠徑一ぱいに晝餉する　長軀
塀添ひに高々咲ける葵かな　全
つばくらめ往來の人に馴れとべる　寒蟬
一筋の野邊の流れや葛の花　全
水鐵砲うちし軒より雫せり　朝陽
風ながら梅雨雲ひくく街を覆ふ　一來
バスの道麥燒く煙の擴がりぬ　富美路
梅雨寒や草の戸閉し病みこもる　美郎

內鮮協和事業

一億一心協和愛國運動

（朝鮮出身）濱田芳男

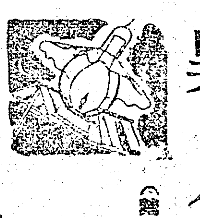
（一）

今や世界情勢は變轉極り無き難局に立ちて我々日本人は困難なしかし光榮ある時代に際會してゐる。明治の大理想を再び想ひ起し更に其れを具体化することに依つて我々は日本國民としての新しい自覺に立たねばならぬ。我々は日本人たることに醒めこの日本の現實を凝視せねばならぬ。この根源に歸すること この地盤に立つことに依つて我々は日本の新しい理想を生み日本の運命を開拓する事が出來よう。私はこ〻に遡つて日韓合併の由來を少しく申上げて見度い。

御承知の如く日韓合併は明治四十三年八月二十九日に行はれた。古くから日本とは深い關係の有る朝鮮である決して英國の印度に對するが如き殖民搾取的政策とは同一視すべきではない。當時の韓國即ち今の朝鮮地方の國利民福を進め東洋永遠の平和を保つためにはどうしても韓國が日本と一体にならねばならぬといふ事が明らかになり韓民の中には熱心に此れを願ふものが少くなかつた。韓國皇帝もまた深く此れを望まれその結果一切の統治權を 明治大帝に御讓りになりたい旨を申し出られた。そこで 明治大帝はこれを御聽許になられ日韓合併に就いての御詔勅を下し給うたのである。其の中に

「一視同仁其ノ民衆ハ直接朕カ愛撫ノ下ニ立チテ其ノ康福ヲ增進スヘク」と仰せられてある。

こ〻に置て韓國を改めて朝鮮と稱へ新たに總督府を於いて政務を司らしめ給うた。此處に於て古くから我が國と親密な關係を續けて來た半島の人民は等しく皇國臣民と成り東洋永遠の平和の基礎は愈々堅くなつた次第である。古代に於ける神功皇后の三韓征伐豐臣秀吉の朝鮮征伐近代に於ける西鄕隆盛の征韓論明治廿七八年の日淸戰役卅七八年の日露戰役最近に於ける滿洲事變の萬寶山事件等日本が數限り無く幾多の難關を突破して來つた所以も大東亞建設の盟主たらんとするためであり一億一心總親和といことは日本國民の念願であると確信する



異人劍法【56】

（[illegible]）

車谷弘 作　下山望東 畫

渦潮（七）

『ねえ、お母さん』

行燈をひきよせて、膝の上につくろひ物をひろげてゐたお作が顏をあげた。

此頃にもなく元氣さうな巳之助の顏を、不思議そうに眺め作ら。

『え』

『實ア少しお母さんにお話したい事があるんだが……』

と膝をそろへて畏まる巳之助に、

『何だい、改まつて』

とお作は不安な眼つきをした。

初音はもう寢んでゐる。蓮臺寺村の夏の夜は、相變らず靜かに更けてゐるのだつた。

巳之助は云ひにくそうに、しひて微笑を浮べ作ら、しきりに拳で膝を叩いて、

『實アほかでもありません。またちよつと、甲州へ行つて來ようと思ふんです』

『えつ、甲州へ……』

と膝をすゝめる母親を、巳之助は手でおさへて、

『何もお母さん、甲州へ行きつきりといふわけぢやアありませんから、どうか御心配なさらないで……。なアにね、私もこつちへ歸りましてから、皆さんの御贔負になつて、持つて、來た水晶も、あらかた賣りつくしてしまひました。それで近いうちに甲州へ仕入れに行かうと思ふんですよ

だが、やつぱりいぶかしそうにお作は伜を見つめてゐるのだ巳之助は微な狼狽をみせながら、

『まつたく……』

とひとりで頷き、

『思ひがけない賣れ行で、こんな有難い事はございません お陰樣でなか〳〵高價な品物もはけるやうですから今度は一つうんといゝ水晶を澤山仕入れて來ようと思ふんですよ。それでねえお母さん、またしばらく家を明けますから……』

『さうかい、それはお前が家を明けるのはいゝけれども、だがねえ己之や』

『え』

『昨日お前を訪ねて來た女の方あの方とお前の話を、實ア私は聞くともなしに聞いてしまつた』

『えつ』

『今夜お前に、あの方を訪ね、ゆくと、かたい約束をしておいでだつたが、それを默つてお前は默つて行くおつもりか、默つて行つていゝのかえ』

『そ、そりやア……』

お作は急に眼を光らせて、

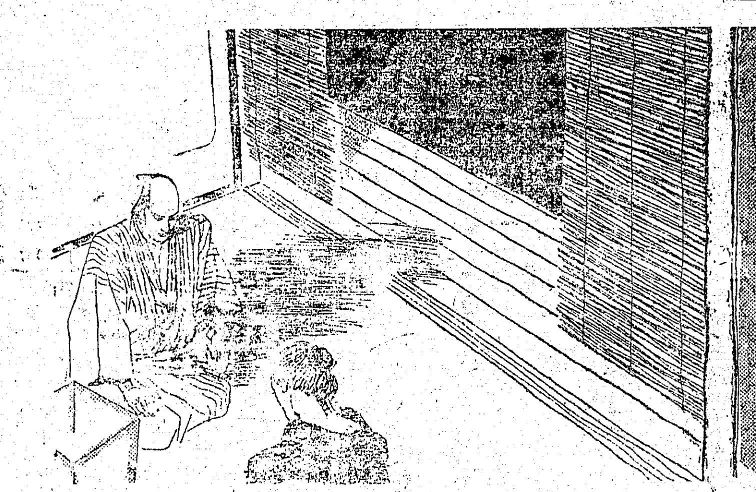
『巳之つ』

『お前、お母さんに、何かかくしてゐる事があるだらう、い〻えきつとさうに違ひない、こないだ珍らしく、遲く歸つて來た晩から、急にそは〳〵と落着きがないし、一日うかぬ顏色をして、商賣をやすんだり、どうもこの年寄の腑に落ぬ事ばかり……。ねえ巳之やお前が何をしようとも、決して母さんは叱りやアしない。何でもかくさずに正直に、お母さんに話しておくれ、そりやア若い者の氣持は年寄にやア分らない事もあらうし、又云ひにくい事もあるだらうがお母さんとお前とは親ひとり子ひとり……。私が賴りに想ふのは、お前だけだよ。巳之水臭いよ巳之、それぢやアあんまり……』

『そ、そんな馬鹿な、お母さん』

『いゝえ、私ア、變な話も聞いたのだよ、お前が下田のばくち打ちと、大喧嘩をしたとかしないとか……』

お作はそつと、袖口で、老の眼がしらを拭ふのであつた。



肉の御用命は
三二三屋
牛も豚も優良品の自慢
平・大國町電323番

おでん
ヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

皮膚科
泌尿器科
性病科
江尻醫院
平市田町
電六九一
江尻伊三郎

ミクローゼ
[illegible]する際に死滅し易い酵母と異り。ミクローゼの主成分である日本固有のビルツは。生存力が極めて強く。服用後。胃腸內でどんどん增殖し。强力な消化酵素を產生する特徴を有して居ります。──故に。効果は持續的。且つ强力であります。何よりの證據は。食慾が增し。快い便通が得られることです。
郵劵十錢で。五日分六十錢の試服藥を急送す
星チエーンストア支部
全國各地藥店に有り
東京・五反田 星製藥株式會社
M9

外科一般、內臟外科
性病科、肛門病科
外科 木村醫院
木村淳
平市南町（警察署通り角）
電話三〇九番
▽入院應需△

大の削節
冷凍魚、鯨肉、ハム
ソーセーヂ
海苔、鰹節、其他食糧品
新鰹節賣出し
日本水產特約
ヒノマル食品店
平市三丁目
電話三二八番

食事
喫茶
酒場
サロン
營業時間
○開店…午前十時より
○御飯は夜九時までに御願致します
○閉店…午後十一時限り
平市銀座街 電話五九二番

お醬油は
味噌、醬油
たひら正宗
鰹節、食料品
醸造 山崎合名會社
福島縣平市
電話 本店 營業部 [illegible]

立食
天婦羅
始めました
おでん
もつ燒
一平
小名濱町

ビルマーチ
五十錠入 一、一〇〇
百錠入 二、〇〇〇
徳用罐入 五、〇〇〇
特約店
平市五丁目
山野邊藥局

內科
外科
小兒科
花柳病科
會田醫院
小名濱町[illegible]

內科
小兒科
外科
性病科
看護婦及び女中募集
院長全快診療に從事
高久病院
院長 高久忠
副院長 赤羽清
藥局長 佐竹菊雄
平市田町
電五一三

新刊書籍
月刊雜誌
特價圖書販賣店
三英堂 村山書店
平市驛前中央通り

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板
ベニヤ板
建具材
木羽、建築材
便利瓦一式
織田材木商店
製材工場
平市・電四九〇番
磐越東線赤井驛前（大作場）電二三五

鳩尾加壓器
みぞおちかあつき
鳩尾を落すこと
一、胃腸は丈夫に動脈硬化が柔ぐ
一、鳩尾を落すことは千古を貫く保健の秘訣です
一、[illegible]これは効くぞ[illegible]のが特徴です
製造元…東京林健體本部
頒布所 平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番

磐城のおみやげ品
みやま羊羹
梨羊羹
小川鄕驛前
平屋賣店

磐城セメント
小賣指定
大谷石を賣始めました
野內商會
平市南町
電話一一番

トンカツ
とんかつ專門の店
營業時間 午前十一時 午後十時半
一日、十七日ハ肉ナシ日ニ付キ休マセテ頂キマス
かの家
平市仲田町
電話四六五番

外科（內臟、整形）
肛門科、性病科
レントゲン科
上田外科
院長 上田耕作
平市南町 電一二九

砂利小賣 販賣
◎長橋町三十番地へ貯藏所を設けました。容れ物御持參下されば小量でも小賣り致します、
◎五合以上の御注文は特に運搬も致します
神谷砂利店
平市白銀町 電話六六五番

鑛泉と割烹
鐵道指定旅館
小瀧
電話（小名濱）一〇三番

產科、婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
病室增築、手術室完備
平市新川町 電三六九

日本油脂株式會社
特約店
ペイント類、ボイール油
ドライヤー、防錆塗料
船底塗料、屋根塗料
黒板塗料、
一手販賣
磐城水產工業株式會社
小名濱町築港內 電一四四

耳鼻科
咽喉科
增田醫院
醫學博士 增田[illegible]之
平市紺屋町
電六五一
▽入院應需△

新鰹節 賣出し
魚問屋へ
鰹節製造販賣
日本生命平代理店
志賀盛榮商店
平市四丁目
電二一三番

輝く金鵄勲章
歸還勇士に家門の譽れ

今次事變の歸還勇士に對する譽れの論功行賞は今十五日陸軍省から發表された、行賞の光榮に浴した本縣關係將士は何れも荻洲部隊に屬し、上海上陸戰から江南の追擊戰に參戰、江陰、南京、徐州會戰、武漢攻略戰等に殊勳を樹て鄕土部隊の勇名を世界に轟かした殊勳者揃ひで殊勳甲十二名、將校八十二名、總數八百十余名の多數が拜受した

江陰城一番乘り
〝殊勳甲〟平顯美中佐

江陰城一番乘りの殊勳に輝く磐城中學校教官平顯美中佐は仙台市錦町の出身で四ツ倉町々頭に長女式江さん(一六)二女みい子さん(一三)長男誠一君(一〇)二男顯二君(七)の愛兒と住んでをり、夫人末子さんは紀子ちゃん(三)と仙台の實家にある。中佐は支那事變前迄北滿にあり匪賊討伐に勇名を轟かせてゐたが今事變勃發と共に十二年十月兩角部隊に參加上海に上陸馬家宅江陰城等何れも一番乘をした猛〇隊長でこの勇名は全軍の華とうたはれ當時の司令官松井石根大將から感狀を授與された外十二年十二月三日畏き邊りから侍從武官後藤光藏中佐を御差遣有難き聖旨並に御沙汰を賜つた當日選ばれて現地戰鬪の狀況及び戰跡說明の光榮に浴したほどである

なほ馬家宅一番乘りの戰鬪は最も甚だしく部下八名と共に素ッ裸でクリーク敵前渡河し二日二晩裸で絕食の苦戰をつゞけ遂に前後七回の突擊を敢行して一番乘りをし續いて日章旗片手に又々江陰城一番乘りを敢行『不死身部隊長』の名を馳せたがこの際砲彈が身邊で發破したため左耳を負傷した

〝神ガカリ曹長〟
鬼准尉　白石正一氏

輝く殊勳甲の恩典に浴した下小川村御殿出身白石正一准尉は同村小學校から磐城中學校に入學、同三年中途退學後鐵道に入り其の後東京方面に至り出征前まで茨城縣日立市日立製作所に勤め昭和十二年九月應召、兩角部隊に屬し彼の上海敵前上陸に參加のち上海附近の掃蕩戰から除州戰宜昌戰にも參加殊に上海附近の戰鬪は最も激烈を極め白襷隊にも加はり中隊長代理並に大隊副官を勤め部隊を指揮、最後まで奮戰した勇士でまた同戰鬪では時計に當つた彈丸がはね返つて双眼鏡に當つたなどの插話もあり幾度か死地にありながら微傷も負はぬ〝鬼准尉〟で『神がかり曹長』の異名をとり運の強い男としても部隊の評判だつた、現在は前記出征前まで勤めてゐた日立製作所に再勤模範從業員として全工場から信頼されてゐる、家庭はいく夫人(三五)との間に正昭君(六)がある、下小川村の實家には母親が十七年前死亡、父菊之助さん(七五)と兄秀政氏(四七)夫婦が百姓して居り〝殊勳甲〟です……と農業を營む秀政氏を訪れると靨を輝かせて次の如く喜んで語つた

一家の光榮です、弟正一は兵隊には夢中でしたがとてものんきな野郎で、征くときも『白木の箱で歸るから……』など冗談を言つてをりましたが運が非常に強い爲か傷一つ負はずに歸還出來たのも皆樣のお陰だと心から感謝して居つた次第です、正一は仙台部隊に入り現役再役で曹長まで行きましたがあんなのんきな男だから大膽なことも平氣で出來たのでせう微傷も負はず〝殊勳甲〟とはほんとうに夢の樣です

一般行賞
功五の殊勳者

一般行賞のうち郡市關係功五以上の殊勳者次の七勇士である

功五旭六大尉　齋藤二郎(平市)
功五双光中尉　榊原多博(神谷)
功五旭五中尉　高木善枝(渡邊)
功五旭六中尉　立花勇(小名濱)
功五旭六中尉　松崎喜一(平市)
功五旭六中尉　金成正二(勿來)
功五旭六中尉　伊關　淳(平市)

力鬪三週間
大竹豐樹伍長

兩角部隊の〝勳功伍長〟三坂中三阪農大竹豐樹君(三四)は中支黃砦山戰鬪で實に三週間に及ぶ不眠不休の力鬪の後軍の作戰展開を有利に導き軍感狀を授與され今回の榮譽を約束づけられたものである

一家は父豐作氏(六六)フクさん(六〇)の兩親と妻カッさん(三三)長男威君(九)の五人暮しである

縣議少尉
木村守江氏

今回の論功行賞發表の中に變り種〝縣議少尉〟がある―四倉町軍醫少尉前縣議木村守江氏で功五旭六を賜つたが木村氏は同町木村醫院から應召、中支戰線に兩角部隊軍醫として活躍歸還後一昨年九月縣議改選に郡部で最高點で當選した、四倉町の家庭にはのぶ子夫人(三四)と長女はつ子さん(磐女四年)がある

緬羊貸與
生產扶助
市內八頭割當

平市役所社會課では縣から割當になつた軍事生業扶助による種牝緬羊八頭を市內次の遺家族に各々一頭宛昨十四日貸與した

△中平窪字橫枕八三新妻ケサノ△中平窪字細田三福田菊衞△中平窪字岩間三八上妻周一郞△中平窪字大谷松崎由雄△中平窪字古館一五十嵐文次郞△下平窪字八木內三七吉田ツル△中平窪字橫枕一六加藤卯助△中平窪字細田三三太田明

秋作增產に
實行組合協議開く

平市では十八日午前十時から市會議事堂に農事實行組合長會議を開き次の事項を協議する

△秋肥料配給割當に關する件△秋作物作付段別調査に關する件△十六年度大小麥作付並に收量割當に關する件△堆肥堆積調査に關する件△麥類及び馬鈴薯現在高調査並に月別出荷數量に關する件△農產物出荷統制に關する件△飼料作物栽培奬勵に關する件△共同作業に關する件△自家保有米供出に關する件△農地開墾助成法に關する件△その他

なほ同會議で來るべき秋の收穫期に對處して勞力不足を克服すべく共同作業することになり學生の勤勞奉仕隊も共同作業の實施する實行組合に割當することを協議する

猪瀨市長今日着任
縣社參拜、吏員へ挨拶

新任平市長猪瀨乙彦大佐は今十五日午後一時五十一分平驛着、伊藤市助役始め市會議員、磐中同窓會關係者等多數に迎へられ自動車で直ちに子鍬倉神社、八幡宮兩縣社へ參拜市長着任を奉告して市役所着、始めて市長室の椅子におさまり、同二時半から市會議事堂に於て吏員一同に對し着任の挨拶した

三時半頃から市內官公衙、銀行會社、新聞社等へ挨拶廻りをなしたが住宅が見つかるまで當分住吉屋旅館に宿泊する

尙明十六日は午前中關係方面へ挨拶廻りし午後から平市公會堂に行なはれる小幡上等兵の市葬へ臨み、十七日は日曜日だが特に伊藤助役との間に事務引繼ぎを行なひ、十八日出縣縣廳及聯隊區司令部其の他關係方面へ挨拶して一旦歸京、家政を整理の上廿五日正式着任する

榮養料理
隣組で傳習會

過般四倉町で行はれた榮養料理講習は相當良效果を擧げたが受講出來なかつた家庭のため各區內隣組每に受講婦人連から傳習を行つてゐる

小名濱町　新發足
玉川地域・今日編入

2600年記念

皇紀二千六百年を記念し兩町村滿場一致で決議した小名濱、玉川合併案は既報の如く去る四日附で內務省の許可なり、今十五日愈々玉川村が解消小名濱町へ全地域が編入され輝やかしい大小名濱への發足についた、昭和十五年十二月末日現在で調査に依る合併後の戶數三千四百三十戶、人口二千五百六十九人となり、地域に於ても、人口に於ても大都市の風丰を備へて來た

18.060
250
20569

順調に進行
―玉川合併するまで―

小名濱町は商港修築以來工業都市への條件を具備し、日本水素工業の大工場設置され、漁業の集散地として海產物加工業も異數の發達を遂げ現に土地狹溢の爲に玉川地域から泉地域へ分散してゐる製造工場は相當の數に上つてゐる、地方鐵道泉小線の敷設や上水道の完成は小名濱町の工業地域たる價値を愈々高めたが如何にせん土地狹溢にして大工場建設の餘地無く、玉川村との合併問題は夙に叫ばれながら遂に今日まで實現の運びに至らなかつたものである

昭和八年十二月小名濱町の都市計畫區域に玉川村大字南富岡大原、岡小名等接續地域が編入されるや玉川側にも先見の明ある一部の人々に依つて『早晩三大字が小名濱に併合されるは必然であり斯くては玉川村の存立を危うくするもの……』と全村合併の機運漸く運き、更に目捷に迫つた玉川國民學校の新改築、農業水路構築(鮫川堰引水)產業道路の建設等々小名濱の財力に依らざれば實現を望めない狀態にあつた爲合併問題は急轉開し、皇紀二千六百年を記念して實現を期すべく2600年も押し迫つた十二月廿八日慌しくも兩町村會を招集合併決議をしたもの

妥動排擊
兩町村比較對照

玉川側一部村民の反對は策謀に乘ぜられ『小名濱町は數百萬圓の町債を有し財政狀態が危殆に瀕して居り從つて合併すると玉川村民は大きい負債に苦しまねばならず、純農村を浸犯される』と云ふデマを直譯した爲で、小名濱側の財政狀態は數字的に明らかにされてゐる、即ち兩町村昨年末現在調査に依る財政を比較して見ると次の如し

玉川村　▲戶數四二六戶△人口、二五〇一人

◎資力、建物二一、四六三圓、諸積金、二、〇一七圓△有價證券類一、九〇五圓△土地現物見積價格六〇、三九五圓計八五、七八〇圓【一戶當資力二〇一圓】

◎公債、償還未濟金二五、七七七圓【一戶當負擔金六〇圓四八錢】

註……小名濱町一戶當り負擔四一圓三九錢、玉川に比し一九圓九錢輕い

◎村稅、△國稅附加稅七、四六七圓△縣稅同、一、九七三圓△獨立稅二、七三五圓計一二、一七五圓【一戶當負擔金二七圓六四錢】

◎村費、△役場費、四、七〇〇圓▽敎育費、三、二〇〇圓△警防費、一、一〇五圓△公債費三、一七〇圓、計一二、一七五圓

◎村稅課率、△地租附加稅『本稅一圓につき四、五〇圓△同營業稅、四、五〇圓△同家屋稅、四圓五〇錢

小名濱町　戶數三、〇〇五戶、人口一八、〇六八人

◎資力、△建物見積二一五、〇〇〇圓△諸積立金、五、七五六圓△有價證券五〇〇〇圓△土地現價見積、二四〇七、〇七〇圓、計二六三、八二七圓【一戶當資力八七六圓】

◎公債、△償還未濟一二四、四〇二圓【一戶當負擔金四一圓三九錢】

◎町稅、△國稅附課稅、二二、五二七圓△縣稅同、二六、六八二圓獨立稅、一九、五一三圓【一戶當負擔金二二圓八六錢】

◎町費、△役場費、一四、〇〇〇圓△土木費、一〇、〇〇〇圓△敎育費、二一、〇〇〇圓△衞生費五〇〇〇圓△警防費四五〇〇圓、△公債費九、五〇〇圓△社會施設三、五〇〇圓△其他一、二二二圓計六八、七二二圓

◎町稅課率、△地租附加稅本稅一圓につき三圓五〇錢△營業稅同三圓五〇錢△家屋稅同三圓五〇錢【玉川に比し一圓安】

◎收益目的の公債△小名濱港埋立未濟五一、八八八圓△町營魚市場建築費未濟五四、六四六圓△上水道借入四七〇、〇〇〇圓

內譯
國庫補助　二九、〇〇〇圓
縣補助　九四、六八三圓
町費負擔　三五六、三一七圓
償還元金　三五、六六一圓

償還未濟元金　二〇三、三五六圓
合計　三〇九、八九〇圓

兩町村の財政狀態は以上の如く一人當りの負擔額は寧ろ玉川側が重く、彈力に富んだ小名濱町の將來は期して俟つべきものがあり、接續した地域を除き純農村を破壞されるどころか、全町への農產物供給地として愈增產への重要使命を帶びることになり、灌漑用水に鮫川江筋支線構築、產業道路の建設、國民學校の增改築など玉川村の自力では到底望み得ない事業も容易に解決出來るであらう

〝自然諒解へ〟
合併の意義今後反映
小野町長談

縣案の合併問題が滯り無く進み今日から輝やかしい新發足につくことの出來たのを全町村民と共に慶びに堪へぬ、合併に際しデマを飛ばして良民を惑はすもの〻あつた事は遺憾であつた、今回の合併は政府の企圖する國土防衞上都市分散組織を主題としたものであつて勿論玉川の純農村を犯すが如き事柄は有り得べからざる事である、反對者の多くは鄕土愛に燃え、〝玉川村の失はれる事に因はれてゐたやうだが鄕土への愛着は當然持つべきことでありこの點玉川村には氣の毒である然し大局的に考へるとき鄕土問題も解消する、合併の新發足に當つて云ひたいことは澤山ある、然し辯明することをやめて合併の意義を今後町政に反映せしめて自然の裡に〝なるほど〟と諒解してくれるやう、今後町政運營の上に責任をもつて當る考へである

町村人口　縣下二位
市制態勢を急ぐ

別項の如く玉川村の合併に依り大小名濱の基礎も確立したが縣下町勢を見ると人口に於て白河町に次ぐ優勢となり、こゝ一兩年中には縣下一の首位を占むる事は何人も疑はず市制實施への施設は日一日と態勢を整へつゝある

縣下優勢町人口は白河町二萬二千四百二十九人、小名濱町二萬〇七百五十四人、湯本町二萬四百五十人、喜多方町一萬三千三百七十三人

內鄕の慘劇
兄弟は殺人罪で公判へ
昨日豫審終結

兄弟喧嘩の末、長兄と末弟が無法者の次兄延夫(三四)を下駄職用の鉈と角材で滅多斬りにして死に至らしめた內鄕村の慘劇事件は十四日豫審終結し加害者の本籍栃木縣芳賀郡市羽村當時石城郡內鄕村大字宮字田町六三居住大工職大島駒太郞(三七)同人弟下駄職義夫(二五)の兩名は殺人罪として公判へ廻附された

殺害された延夫は生來短慮であり、平常粗暴の振舞多く加ふるに怠け者で屢々駒太郞義夫等の兄弟に金錢を無心しては迷惑をかけてゐたが本年三月年金を貰ふやうになつてからは一層それが甚しく、加害者方に宿泊しては些細の事で被告人等の妻子を叱責し、兄駒太郞は七月十日その難を避けるために高萩町に轉住すべく綴驛に出掛けたる所延夫は父に暇乞ひをして來いといつて無理に弟義夫の店に呼びもどし不法にも前夜自分が勝手に燒却した所持品の辨償を迫つたので長兄駒太郞が之を拒絕するやそこにあつた下駄で兄駒太郞の頭部背部等を毆打し、その物音に驚いて末弟の義夫が驅けつけて抱きとめた處今度は義夫にも打ちかゝつて來たので義夫は一層此際延夫を殺害して後患を除かうと決意し店頭にあつた約九寸重量四百五十匁の下駄製造用の鉈で延夫の後頭部背部に斬りつけ兄駒太郞も立ちあがつていつそ殺して復讐の難を避けようとして長さ三尺の三寸角を以て頭部を強打死に到らしめ近親殺害の重罪を犯したものではあるが加害者の近隣では却つて駒太郞、義夫兄弟に同情を寄せてゐる

傳染病組合
小名へ合併移讓

小名濱、玉川聯合傳染病豫防組合議員臨時總會は十三日小名濱町役場に開き兩町村合併に依り隔離舍用地五反一畝餘構造物五棟八十五坪は小名濱町へ移管した

都計に基く
區劃整理組合

小名濱町で十四日午後一時より第一校講堂に於て〝土地區劃整理組合設立の件〟で地主二百余名の參集を求めたが、本町の計畫中であつた諏訪神社周圍及び傳染病舍一圓の新開地住宅工場は今般都市計畫法に基き區劃整理を施行し現在に於ける無統制なる建築敷地を調整し大都市實現への一假階に入らんとするもので本町最初の土地區劃整理組合の實現を見たものである

野薊例會
明日酒喜屋で

地方同好者より成る野薊會の例會は明十六日午後六時より平市田町さかきやに於て行ふが兼題は左の如く尙互選句の最高點には賞品を贈る事になり、多數參集を求めてゐる

兼題互選　炎天、蟬、紫陽花　五句
兼題　瀧、冷奴、五句
兼題　七夕　五句
野薊集五句（當季雜詠）

洋食屋
◎◎◎◎◎
十七日公休

市內の洋食屋さんは每月十六日を公休日と定めてゐた處、西洋料理組合縣聯合會の協議會がある爲十七日公休日に臨時變更することになつた

肉無しデーが十七日の關係から今後洋食屋さんの公休日は十七日に變更されるらしい

小遣錢で
慰問袋贈る

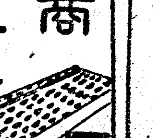
平第一少年團第五分團員(一丁目)林富昭さん外二十二名は小遣ひ錢を貯めた金を持寄つて慰問袋一個を今十五日市役所に寄託

小切手在中
四倉で蟇口拾得

四倉町字新町下駄製造業新妻高近氏は今朝四時半頃自宅前國道で黑革製蟇口一個を拾ひ警察署に屆け出たが中には平市常陽銀行平支店支拂ひ一千三百五十圓記入小切手と現金二十余圓入つてゐた、同署では落主を搜査中

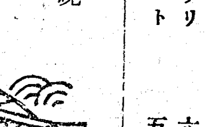
平市慶弔錄

【婚姻】石城郡勿來町大字田澤字前ノ內三番地秋元金助(二七)さんと平市鎌田町二十五番地木田ミツ子(二八)さん

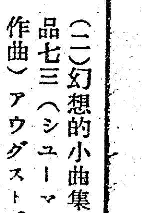
商況

（十五日）

【野菜】小賣値百匁

ナス	五、錢
南瓜	六、錢
キウリ	六、錢
トマト	五、錢

今晩のオジラ

（十五日夜の部）

▲六・〇〇　水底で拾つた話(一)「關門トンネルにて」奥野泰弘(二)「大阪灣にて」衞藤賢章△音のなぞ(五)中野義見△シンブン
▲六・三〇　（AK）邦樂聯曲「凉風」三吉小靜、外(HK)水邊夜話(三)「奧州の川の凉味」安齋徹
▲七・二〇　政府の時間
▲七・三〇　われらのうた「木星會」
▲七・四〇　歌謠曲「朝鮮の山水」木蘭影、張世貞
▲八・〇〇　ヴァイオリン獨奏(一)ヴァイオリン奏鳴曲（サマルテイー＝作曲）(二)幻想的小曲集作品七三（シューマン作曲）アウグスト・ユンケル（ピアノ）マリオ・カイザー
▲八・二〇　浪花節「仲間義士」末廣友若
▲九・〇〇　音の鄕土めぐり(廣島)
▲九・一〇　（北京より）(一)現地報告(二)翼賛する華北」高木健夫(三)齊唱と合唱　北京日本兒童合唱團　北京靑年合唱團



今晚　南の風曇り時々雨模樣です
明日　同じ
（十六日）
滿潮　前二、三五　後一〇、〇〇
干潮　前四、三三　後三、四五

大塚の――
靴と運動具、樂器
自製靴各種
野球用具　庭球用具　競技用具　卓球用具　登山用具　体育用具
各種運動服裝　ハーモニカ　手風琴
團旗、優勝旗
各種豊富に揃つて居ります
御用は　大塚へ
平市田町銀座通　電話七十七番

御料理　一の井
平　三田小路
電　一六七

いよ〳〵佐渡行き迫る
期日　來十七日午前六時平驛發、三泊四日
會費　卅八圓五十錢
【此の際至急御參加御申込み願ひます】
申込所　一の井方
平市三田小路　電話一六七番

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
何時も材料を吟味して居ります
マルトモ食堂
平市四丁目　電話一二三番

運轉手　至急募集
高給デ優遇ス
委細面談
希望者ハ左記へ申込マレタシ
平市中町十四番地
大和炭礦營業所
電話六〇三番